

京都大学構内遺跡調査研究年報

1999年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

京都大学構内の遺跡調査は、吉田キャンパスのほか、高槻市の安満遺跡、和歌山県白浜町の瀬戸遺跡など、各地の付属施設の建物建設にあたって実施し、組織的な調査をおこなうようになって以後、調査面積は70000㎡を越えている。この間に、縄文時代の集落の構造を示す住居跡や墓地、弥生時代の水田跡、古代の梵鐘鑄造遺構、文献に記された京と近江を結ぶ中世・近世の道路跡、幕末の土佐藩および尾張藩の下屋敷跡など、先史時代から近世にいたる長い歴史のなかで刻まれた、貴重な資料が明らかになっている。これらの調査成果は年次報告として公表しているほか、現地に埋め戻しあるいは移築保存している遺構もあり、出土資料の一部は埋蔵文化財研究センター資料室に展示している。

本年報は、1999年度に吉田キャンパス内でおこなった、発掘および立合調査から得られた、主要な遺構・遺物の分析の成果を第Ⅰ部で報告し、第Ⅱ部の紀要で、過去の調査で出土した瓦の資料を再検討して、造瓦組織の復元を試みたものである。この鴨東地域の考古資料の内容は、過去の調査の蓄積からほぼ把握された観もあるが、この報告にみられるように、新たな出土資料によって分析が深められ、さらなる検討を要する諸点も明らかになっている。ご高評をお願いしたい。

おわりに、これらの調査を進め上でご指導ご助言をいただいた、学内外の関係者および関係機関、とりわけ、発掘にあたって多くの協力を賜った、施設部、文学部、医学部、医学部付属病院の関係各位には、ここに厚くお礼申し上げる次第である。

2003年11月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

鎌田元一

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で1999年4月1日から2000年3月31までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学埋蔵文化財研究センターにおける研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第Ⅵ座標系（日本測地系、 $x = -108,000$ $y = -20,000$ ）が（ $X = 2,000$ $Y = 2,000$ ）となる京都大学構内座標により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE，土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。
Ⅰ：京都大学病院構内 AF20 区の発掘調査
Ⅱ：京都大学医学部構内 AO17 区の発掘調査
Ⅲ：京都大学本部構内 AW26 区の発掘調査
（例 Ⅰ 1：京都大学病院構内 AF20 区出土遺物 1 番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4，遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のもの、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また遺物の撮影はおおむねそれぞれの報告者が担当した。
- 10 編集は、伊藤淳史が担当し、清水芳裕、千葉 豊、富井 眞、阪口英毅、梶原義実、磯谷敦子、北尾敬子、柴垣理恵子が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 1999年度

目 次

第 I 部 1999年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 1999年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	1
第 2 章 京都大学病院構内 AF20 区の発掘調査	3
1 調査の概要	3
2 層 位	4
3 遺構と遺物	5
4 小 結	11
第 3 章 京都大学医学部構内 AO17 区の発掘調査	13
1 調査の概要	13
2 層 位	14
3 古代以前の遺跡	17
4 中世の遺跡	18
5 中世の瓦	60
6 近世の遺跡	76
7 小 結	78
第 4 章 京都大学本部構内 AW26 区の発掘調査	81
1 調査の概要	81
2 層 位	81
3 遺 構	84

4 出土遺物	87
5 小 結	106
第5章 京都大学本部構内 AX22 区の立合調査	113
1 調査の概要	113
2 調査の成果	114
3 黄色砂の堆積と旧地形	116
参 考 文 献	123
京都大学構内遺跡調査要項	127
報 告 書 抄 録	135

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 XV

13世紀における「中央官衙系」瓦工の編成と展開 ——京都大学医学部構内 AO18 区の資料から——	
1 はじめに	139
2 出土資料	140
3 SK12 出土の一括資料について	151
4 おわりに	154
図 版	巻末

図 版 目 次

- 図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 図版 2 京都大学病院構内 AF20 区
- 1 完掘後の調査区全景（北から）
 - 2 SK1（北から）
 - 3 SK7（南から）
- 図版 3 京都大学病院構内 AF20 区
- 図版 4 京都大学医学部構内 AO17 区
- 1 調査区西北部近世遺構全景（南から）
 - 2 調査区全景（完掘後・南東から）
- 図版 5 京都大学医学部構内 AO17 区
- 1 路面状遺構 SF1（北から）
 - 2 路面状遺構 SF2（北から）
 - 3 路面状遺構 SF3a（東から）
 - 4 路面状遺構 SF4（北から）
 - 5 土器溜 SX3（西から）
 - 6 土器溜 SK6（西から）
- 図版 6 京都大学医学部構内 AO17 区
- 1 集石 SX2（南から）
 - 2 集石 SX5（南から）
 - 3 集石 SX9（東から）
 - 4 集石 SK20（SE23上面・南から）
 - 5 集石 SX11上層（南から）
 - 6 集石 SX11下層（東から）
- 図版 7 京都大学医学部構内 AO17 区
- 1 井戸 SE6（北から）
 - 2 井戸 SE10（北から）
 - 3 井戸 SE11（東から）
 - 4 井戸 SE12（北から）
 - 5 井戸 SE13（北から）
 - 6 井戸 SE14（東から）
- 図版 8 京都大学医学部構内 AO17 区
- 1 井戸 SE15（南から）
 - 2 井戸 SE16（北から）
 - 3 井戸 SE17（西から）
 - 4 井戸 SE20（南から）
 - 5 井戸 SE21（南東から）
 - 6 井戸 SE22（北から）
- 図版 9 京都大学医学部構内 AO17 区
- 古代の遺物，SK6 出土遺物，SE15 出土遺物，SE23 出土遺物，SK20 出土遺物

- 図版22 京都大学本部構内AW26 区
SE2 出土遺物
- 図版23 京都大学本部構内AW26 区
SE1 出土遺物, SE3 出土遺物
- 図版24 京都大学本部構内AW26 区
SE4 出土遺物
- 図版25 京都大学本部構内 AW26 区
軒丸瓦
- 図版26 京都大学本部構内 AW26 区
軒平瓦
- 図版27 京都大学本部構内 AX22 区の立合調査
1 Aトレンチ (北東から) 2 Bトレンチ (南西から)
3 大溝 SDI の断面 (北から)
4 Aトレンチ南壁中央の層位 (北から)
5 Bトレンチ東壁中央付近の層位 (西から)
- 図版28 京都大学医学部構内 AO18 区出土の瓦
軒丸瓦
- 図版29 京都大学医学部構内 AO18 区出土の瓦
軒平瓦, 平瓦, 磚

挿 図 目 次

病院構内 AF20 区の発掘調査	
図1 層位模式図……………4	SD36 出土遺物……………34
図2 中世の遺構……………5	図21 SK20・SK11・SK16 出土遺物 ……………38
図3 縄文時代の土器……………6	図22 SE16・SE18・SX5・SX10 出土遺物……………39
図4 SE1 出土遺物(1)……………7	図23 SK3・SK12・SK18・SK24・ SK13・SK17 出土遺物……………40
図5 SE1 出土遺物(2)……………9	図24 SK23 (その1)・SX11・SE19 出土遺物……………41
図6 SK1・SK2・SK3・SK4・SK5・ SK7・SP8・攪乱出土遺物……………10	図25 SK8・SK10・SK15 出土遺物 ……………46
医学部構内 AO17 区の発掘調査	
図7 調査地点の位置……………13	図26 SX2・SX6・SX9 出土遺物……………47
図8 調査区西壁の層位……………15	図27 SE6・SE13・SE17・SE21・ SE24 出土遺物……………50
図9 調査区東西畔の層位……………16	図28 SX7・SX8 出土遺物……………51
図10 古代以前の出土遺物……………18	図29 SK2・SK7・SK9・SD28・ SD31・SD32・池状落込・SK23 (その2) 出土遺物……………52
図11 中世の遺構 (その1)……………20	図30 SF2・SF3・SF4・茶褐色土 出土遺物……………53
図12 中世の遺構 (その2)……………21	図31 黄灰色土・暗黄灰色土出土遺物 ……………54
図13 調査区南壁東半の層位……………23	図32 土製品・石製品……………56
図14 中世の井戸 (その1)……………25	図33 鉄製品・青銅製品……………58
図15 中世の井戸 (その2)……………26	図34 焼土塊……………59
図16 中世の井戸 (その3)……………27	図35 軒丸瓦……………62
図17 中世の井戸 (その4)……………28	図36 軒丸瓦転用硯……………63
図18 SK4・SK6・SK19・SX3 出土遺物……………32	
図19 SE10・SE11・SE12・SE14・ SE20・SE15・SE22・SE23 出土遺物……………33	
図20 SK26・SD30・SD34・SD35・	

図37	軒平瓦(1)……………	65
図38	軒平瓦(2)……………	66
図39	軒平瓦(3)……………	67
図40	丸瓦……………	69
図41	鬘斗瓦・平瓦(1)……………	70
図42	平瓦(2)……………	71
図43	窺記号・刻印一覧……………	73
図44	近世の遺構……………	76
図45	灰褐色土・攪乱出土遺物……………	77
図46	医学部構内地籍図と発掘調査地点……………	79

本部構内 AW26 区の発掘調査

図47	本調査区の層位模式図と 立合調査区の層位……………	83
図48	検出遺構と周辺調査区の おもな遺構……………	85
図49	縄文時代の遺物……………	87
図50	古墳時代の遺物……………	88
図51	SE2・SK1 出土遺物……………	90
図52	SE1・SK4 出土遺物……………	91
図53	SD3・SK9・SK6・SK13 出土遺物……………	93
図54	SE3 出土遺物……………	94
図55	SK8・SK10・SK12 出土遺物……………	95
図56	SE4 出土遺物(1)……………	98
図57	SE4 出土遺物(2)……………	99
図58	SE4 出土遺物(3)……………	100
図59	軒丸瓦……………	101

図60	軒平瓦(1)……………	102
図61	軒平瓦(2)……………	103
図62	木製品……………	104
図63	SD1 出土遺物……………	105
図64	回転台土師器(1)……………	109
図65	回転台土師器(2)……………	111

本部構内 AX22 区の立合調査

図66	調査区の位置……………	113
図67	調査区の層位……………	114
図68	60地点の層位……………	115
図69	黄色砂の層厚と黄色砂内の 巨石の分布……………	117
図70	弥生時代前期末の地勢……………	118
図71	関連地点の層位(1)……………	119
図72	関連地点の層位(2)……………	121

13世紀における「中央官衙系」瓦工の 編成と展開

図73	本調査区と周辺調査地点……………	139
図74	AO18 区出土軒丸瓦(1)……………	142
図75	AO18 区出土軒丸瓦(2)……………	143
図76	AO18 区出土軒平瓦……………	146
図77	AO18 区出土平瓦・塼……………	149
図78	AO18 区出土窺記号・刻印瓦……………	149

表 目 次

<p>表1 SE1 出土土師器の法量分布 …………… 6</p> <p>表2 中世井戸一覧表……………29</p> <p>表3 SK4・SK6・SK19・SX3 出土 土器計測結果……………30・31</p> <p>表4 SK20・SK11・SK16 出土土器 計測結果……………36・37</p> <p>表5 SK23・SX11・SE19 出土土器 計測結果……………42・43</p> <p>表6 SK8・SK10・SK15 出土土器 計測結果……………44・45</p> <p>表7 SX2・SX6・SX9 出土土器 計測結果……………48・49</p> <p>表8 軒丸瓦の遺構別出土点数……………60</p> <p>表9 軒平瓦の遺構別出土点数……………63</p> <p>表10 匱記号・刻印の遺構別出土点数 ……………73</p>	<p>表11 匱記号の型式別出土点数……………73</p> <p>表12 SE6 出土瓦の偶数……………75</p> <p>表13 京都大学構内遺跡のおもな調査 ……………128</p> <p>表14 AO18 区出土の軒丸瓦……………141</p> <p>表15 AO18 区出土の軒平瓦……………147</p> <p>表16 軒丸・丸瓦偶数……………153</p> <p>表17 軒丸・丸瓦匱記号……………153</p> <p>表18 先端部の分類……………153</p> <p>表19 軒平瓦偶数……………153</p> <p>表20 軒平瓦匱記号……………153</p> <p>表21 平瓦偶数……………153</p> <p>表22 平瓦刻印……………153</p> <p>表23 他遺構との比較（軒丸・丸瓦） ……………153</p> <p>表24 他遺構との比較（軒平瓦）……………153</p> <p>表25 他遺構との比較（平瓦）……………153</p>
--	---

第 I 部 1999年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

- 第1章 1999年度京都大学構内遺跡調査の概要
- 第2章 京都大学病院構内AF20区の発掘調査
- 第3章 京都大学医学部構内A017区の発掘調査
- 第4章 京都大学本部構内AW26区の発掘調査
- 第5章 京都大学本部構内AX22区の立合調査

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要 XV

13世紀における「中央官衙系」瓦工の編成と展開

——京都大学医学部構内 A018 区の資料から——

梶原 義実

2003年11月1日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
1999年度

編集行 京都大学埋蔵文化財研究センター
京都市左京区吉田本町
印刷製本 有限会社真陽社
京都市下京区油小路仏光寺上ル